

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 290 号	氏名	Libendi Samuel Shikuku
学位審査委員	主 査 尾野村 治 副 査 畑山 範 副 査 田中 正一		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、多くの医薬品の中核をなす環状アミン類を効率的に合成できる反応を開発しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 入手容易な単純な構造の環状アミンを自在に修飾できれば、医薬品等に見られる複雑な構造の環状アミン類への有用な分子変換法となる。本研究では、環境調和および原子効率に優れた手法である電極酸化法を用いる自在分子修飾法の開発を検討することとした。 電極酸化法に於いてはこれまで用いられていなかった保護基や反応メディアを用いれば、従来の保護基・メディアを用いた場合とは異なる選択性が得られるとの独自の発想に基づくものであり、高く評価できる。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で検討した結果、シアノ基で保護することにより 2 位置換環状アミンの 2 位選択的酸化法、ヨードアニオンをメディエーターとする 2 位置換ピペリジンの 5 位へのシス選択的水酸基導入反応、酸性反応メディアを用いる環状アミン 2 位への一段階シアノ基導入反応、シス-2,3-ジヒドロキシ環状アミン類の環縮小反応の開発に成功した。いずれの反応もこれまで全く知られていなかった反応であり、有用な医薬分子合成にも利用可能である。以上の点から、これら研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は医薬品合成化学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			